

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC) による 2011年の経済回顧と2012年経済見通し

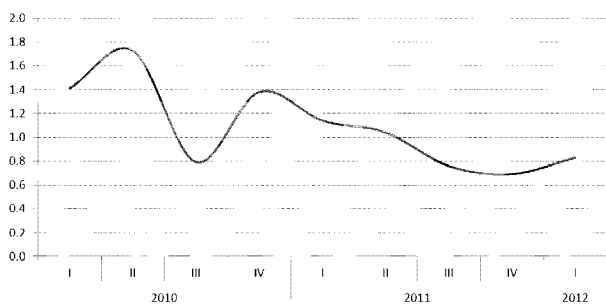
ECLAC は 6 月に「ラテンアメリカおよびカリブ諸国マクロ経済」レポートを発表した。同レポートは2011年から2012年第一四半期にかけてのマクロ経済実績を分析した上で 2012 年の経済見通しを行っている。以下は同レポートの要約である。

2011 年および第一四半期の経済

2011 年のラテンアメリカおよびカリブ諸国（以下 LAC と略す）の経済成長率は 2010 年の 6%から 4.3%へと鈍化した。成長率減少の主な要因はヨーロッパ危機による外需の縮小である。しかしながら、この地域全般に共通する内需の拡大が景気を下支えた。内需拡大は、主要国の雇用の改善（主要国の失業率は 2010 年の 7.3%から 2011 年には 6.7%に低下）と賃金上昇によってもたらされた。

LAC の最近の経済成長率を四半期別にみると、緩やかな鈍化傾向を辿っているものの、2012 年第一四半期には成長率はやや増加傾向に転じている（図表 1）。この要因について、ECLAC はこの時期に米国経済に改善がみられたため、と説明している。

図表 1 LAC の GDP 伸び率（対前期比、%）



インフレ率（年率）は、2011 年第 3 四半期にかけて国際的な食品および石油価格の増加によって増加傾向にあったが、2011 年半ばから国際的に食品価格が減少傾向に向かったことを反映して、2011 年 12 月の 7%から 2012 年 3 月には 6.7%、そして 4 月には 5.5%へと低下傾向を辿った。その背景には欧米の需要減によって、2011 年末から一次産品価格が緩やかではあるが、低下するようになったためである（図表 2）。そして、そうした一次産品輸出国の輸出額も減少に向かった。しかしながら、海外送金および観光収入の漸増により、経常収支の赤字幅は GDP の 1.4%に止まった。一方、この経常収支の赤字のファイナンスについては、LAC は引き続き国際資本市場から順調に資金を取り入れており、LAC の資金調達コストは安定的に推移した、とされている。

南欧諸国の財政危機が LAC 諸国にも影響をおよぼすのではないかと懸念される中で、2011 年の LAC 諸国の財政収支は、財政収入の増加が支出の増加の速度を上回ったため、プライマリー収支は GDP の 0.1%の黒字を記録した。しかし、グローバル経済の成長鈍化の影響を回避するため、財政支出を増加し、景気刺激策を採ろうとする国もある。

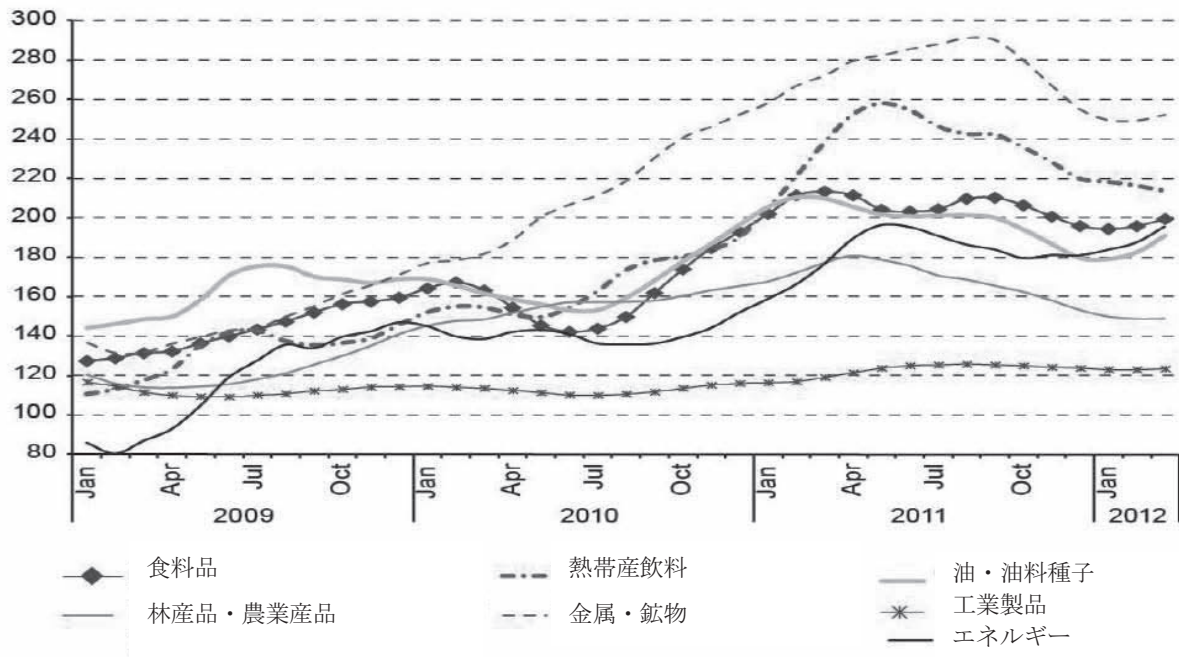
その好例が、ブラジルであり、政府は 2011 年 12 月に金融取引税、耐久消費財の工業製品税の引き下げ、社会保障関連負担の軽減など景気刺激策を導入した。ペルー政府も、2011 年 9 月から 10 月にかけてインフラ整備のための財政出動などの景気刺激策を導入した。一方、財政収支悪化を懸念する国々では 2011 年末から 2012 年初めにかけていくつかの国で税収増を

目的とする税制改革が実施、導入されつつある（図表 3）。

このように、LAC は 2011 年から 2012 年初めにかけて、外部環境の悪化にもかかわらず、

その影響は軽微であったというよりも、インフレ率の低下、失業率の低下など、域内全体を通して経済環境は好転したといえる。

図表 2 一次産品価格の推移



図表 3 税制改革を導入しつつある国々

エクアドル	・環境税(自動車、ビン、プラスチック袋) ・タバコ、アルコール、外貨持出しの課税率引き上げ
エルサルバドル	所得税増税 ・法人税引き上げ(25%→30%) ・Gross Incomeに対する課税(最低1%)
グアテマラ	所得税改革 ・コストおよび控除対象支出の規制 ・配当に対する課税5% 自動車登録税導入、自動車税引き上げ
コスタリカ	税制統一法導入プロジェクト ・所得税改革により既存の所得税を15%に統一 ・消費税をVATに変更
パラグアイ	個人所得税改革
チリ	・事業税引き上げ ・教育費負担の控除 ・不正との闘い
コロンビア	・既存の税制の不公平の是正 ・税逃れの削減

2012 年の経済見通し

2012 年の経済成長見通しを行うに当たり、LAC を取り巻く外部環境をみると、3 点の不確実性が浮かび上がる。すなわち、①ユーロ圏の

財政不安、②米国経済の不確実性、③中国とインドの経済成長の鈍化、である。そうした中で描かれる可能性の高い世界経済のシナリオとして、ECLAC は以下の 3 点を想定した。①ギリシャの財政問題が選挙の結果、EU の支援を受けながら緊縮財政政策を採ることでもとりあえず落ち着き、同じことが他の財政危機国にも起こることを想定、その結果、欧州経済は緩やかなリセッションとなる、②資金の流れは安定を求める方向に向かうが、LAC への資金流入、特に直接投資はこれまでの水準が維持される、③米国経済は緩やかに成長する。

その結果、世界経済の成長率が 2011 年の 2.7%から 2012 年には 2.5%へと漸減し、新興国経済も 5.9%から 5.3%へと成長鈍化が見込まれる中で、LAC の成長率は 3.7%と、前年の 4.3%から 0.6 ポイント下がると予想されてい

る(図表 4)。本見通しを行うに当たり、ECLAC は世界経済環境の影響が異なるという意味で国々を図表 4 のように分類し、それぞれについて景気見通しを行った。

米国への依存度の高いメキシコおよび中米・カリブ諸国は米国の緩やかな景気回復の影響により、輸出および観光客の増加などが見込まれるため、前年並みあるいはそれ以上の経済成長を達成するものと見込まれている。

図表 4 LAC2012 年経済見通し

	2008	2009	2010	2011	2012a
国際経済への統合が進んだ国					
ブラジル	5.2	-0.3	7.5	2.7	2.7
チリ	3.7	-1.0	6.1	6.0	4.9
コロンビア	3.5	1.7	4.0	5.9	4.0
メキシコ	1.2	-6.3	5.6	3.9	4.0
ペルー	9.8	0.9	8.8	6.9	5.7
農産品輸出国					
アルゼンチン	6.8	0.9	9.2	8.9	3.5
パラグアイ	5.8	-3.8	15.0	3.8	-1.5
ウルグアイ	7.2	2.4	8.9	5.7	3.5
炭化水素輸出国					
ボリビア	6.1	3.4	4.1	5.1	5.2
エクアドル	7.2	0.4	3.6	7.8	4.5
トリニダード・トバゴ	2.3	-3.0	0.0	-1.4	1.7
ベネズエラ	5.3	-3.2	-1.5	4.2	5.0
ラテンアメリカ・カリブ総計	4.0	-2.0	6.0	4.3	3.7
ラテンアメリカ小計	4.0	-2.0	6.1	4.3	3.7
中米(9ヶ国)	4.3	1.0	4.2	4.2	4.2
南米(10カ国)	5.4	-0.2	6.5	4.5	3.5
カリブ小計	0.8	-3.0	0.0	0.4	1.9

a 見通し

国際経済への統合が進んだ、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルーという LAC 主要国の平均成長率 4.4%となると見られるが、ブラジルについては、2012 年の経済成長率は 2011 年と同じ 2.7%という低成長が予想されている。ブラジルは、インフレ懸念から高金利政策を採っていることもあって、非居住者の資金流入が増加したため、国際収支が黒字基調にあり、リアル高が続いている。そのため、ブラジルの工業製品の競争力が低下しており、政府は国内産業保護政策とも受け取られる、国産品優遇措置などを打ち出している。

ブラジル以外の国々については 4~5%台の安定的経済成長が見込まれている。

農産品輸出国については、外需の減少と価格の低下によって輸出が減少するとみられるところから成長率は急減すると見られている。特にパラグアイについては、2012 年のマイナス成長が予想されているが、これは 2012 年春に起きた洪水の影響である。

炭化水素資源の輸出国については、石油価格が依然として高水準にあるところから、2012 年の経済は前年並みに増加するものと見られている。

以上の可能性の高いシナリオに対して、欧州危機が深化し、その影響が LAC におよぶ、という可能性の低いシナリオも想定されている。その場合、国際資本移動は LAC には向かわず、コモディティ価格は下がり、その輸出国である LAC 諸国の輸出は減少、財政収入も減少し、内外投資は振るわず、経済成長率は大幅に低下するとみられる。

しかしながら、ECLAC は、LAC 諸国は 2008 年から 09 年にかけてのリーマンショックを経て、巧みな景気対策を採るようになっていたため、外部ショックに対してもそれを緩和する政策を採ることができるようになった、と評価している。

(事務局：岩見 元子)